

訪問型 服薬自己管理 プログラム

[シナリオ] プログラムの実際

生きる力をつくる



プログラムに使用するすべてのビデオや各種帳票などは
以下のウェブサイトから閲覧・ダウンロードすることができます。

PC/スマートフォン/タブレット対応

<http://www.homepage.com>

QR

指導・監修 = 一般社団法人 SST普及協会 SST-MMTグループ

製作・著作 = (株)中島映像教材出版

シナリオの使い方

「◇」進め方の項目に従って、読み上げながら進めていただけるように作られています。

「太字」は指導者の言葉（台詞）を、
「<>」は指導者の配慮点・動きを示しています。

目次

02	第1回	服薬教室の目標、「服薬状況・症状自己評価チェック表」の付け方を知る
06	第2回	薬の体内動態、薬物血中濃度など、薬の基礎知識を知る
10	第3回	向精神薬について知る
14	第4回	薬の服用中止による再発の危険性について知る
18	第5-1回	薬を服用するための正しいステップを知る
22	第5-2回	薬の剤形と服薬自己管理方法について知る
26	第6回	正しい薬の飲み方のルールと飲み忘れた時の対処法について知る
32	第7回	薬の副作用の正しい対処法について知る
38	第8回	持効性注射薬(LAI)について知る

第1回 服薬教室

服薬教室の目標、「服薬状況・症状自己評価チェック表」の付け方を知る

◇進め方

1. 挨拶
2. 服薬教室の導入
3. 今日の内容の紹介
4. ビデオ視聴（第1-1回ビデオ）
5. 質疑応答
6. ロールプレイ
7. 質問がないか尋ねる
8. ビデオ視聴（第1-2回ビデオ）
9. 質問がないか尋ねる
10. 宿題の設定と次回の予定確認

◇挨拶と服薬教室の導入・説明

<〇〇さんの自宅>

〇〇さんこんにちは。訪問スタッフの△△です。

前回の面接で、薬についての思い、良かった点、困ったことなどをお聞きしました。〇〇さんは、薬についていろいろと疑問があるようですね。

今後の訪問では、薬についての疑問を解決して正しく服用できるよう、一緒に薬について学んでいきましょう。

このタブレットで「服薬教室」のビデオを観ながら学びます。ビデオを観た後にポイントを幾つか質問をさせていただきます。そして簡単なロールプレイをしてみましょう。

分かりやすいテキストがありますので、分からないことがあったら、いつでも質問してください。よろしいですか？

<発言を聞き、ワークブックを手渡します。>

では、ワークブックをお渡しします。『第1回服薬教室』のところを開いてください。

◇今日の内容の紹介

今日は、なぜ薬について学ぶ必要があるのかということ、そして服薬状況や体調のチェックの方法について学びます。

これからビデオを観ていただきますが、服薬教室の基本となる内容です。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

<ワークブックの『第1回服薬教室』を示します。>

◇ビデオ視聴（第1-1回）

<タブレットで、『第1-1回服薬教室ビデオ』を観ます。>

<理解を確かめながら、繰り返し観るのもよいでしょう。>

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほど示した質問をしますが、よろしいでしょうか。

Q1. この教室の目標は何でしょうか？

（自分の薬について知り、正しく飲むことでよい効果を得られるようになる。）

Q2. なぜ薬について学ぶ必要があるのでしょうか？

（自分が薬を飲むときに、薬のよい効果を得るための十分な情報を知るため。）

Q3. 目標を達成することで得られるメリットにはどんなことがありますか？

- ・症状を和らげる、
- ・再発や再入院を減らして、よい状態でいられる、
- ・他の治療プログラムにも参加しやすくなり、社会参加の機会が増える、
- ・正しく飲むことで副作用を最小限に抑える。）

<答えにつまった時は、タブレットで『第1回服薬教室（回答付き）』を示します。>

ここまでの内容について何か質問はありませんか？

◇ロールプレイ

<今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでいる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。>

ではこれからロールプレイをしましょう。ロールプレイについてはご存知ですか？

<ロールプレイについて知らない場合は、資料**を使って、簡単に説明します。>

ロールプレイで練習することは、今後〇〇さんが薬を飲んだり、服薬を管理したりする際にとっても役立ちます。二人でやってみましょう。

<場面設定>

ここを病院の相談室としましょう。患者さんが『服薬教室の目標』について、薬の専門家に聞いている場面です。

<役割設定>

〇〇さんは、『服薬教室の目標』について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

<目的把握>

患者役の私が質問しますから、『服薬教室の目標』について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。はい。<手をたたく。一拍おいて>

「先生、質問があるのですが、いいですか？ 服薬教室の目標って何ですか？」

（自分の薬について知り、正しく飲みことでよい効果を得られるようになることです。）

<時間があれば、Q2、Q3についても行います。>

<手をたたく、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック（良かった所を具体的に挙げてほめてください）>

〇〇さんの説明は、要点をつかんで、はっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

第2回 服薬教室

薬の基本的知識について学ぶ

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 前回の復習
4. 今日の内容の紹介
5. ビデオ視聴
6. 質疑応答
7. ロールプレイ
8. 質問がないか確かめる
9. 宿題設定と次回の予定確認

◇挨拶（気分と体調の確認）

<挨拶をかわし、前回訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？ など。

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめ、記入継続を促します。>

<チェック表の必要性を再確認します。>

〇〇さん、服薬と症状のチェック表は記入できましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。とても良いですね。

この表で薬を飲んだか飲まなかったかのチェックをすることができますし、現在の自分の症状を確認することができます。症状のチェックは、主治医に自分の症状を上手く伝えるのに役立ちます。副作用のチェックにも役立ちます。ぜひ続けるようにしましょう。

◇服薬教室ビデオ第1-2回の視聴

今日はもう一つのビデオを観ていただきます。

これから、毎日記入していただく『服薬と症状のチェック表』の使い方について説明しています。このチェック表を確認しながらビデオを観てください。

<『服薬状況・症状自己評価チェック表』を手渡します。>

<タブレットで、『服薬教室ビデオ第1-2回』を観ます。>

どうですか？ 付け方は分かりましたか？

<理解の程度により、説明を加えます。>

なぜ、チェック表をつける必要があるのかについてはいかがですか。

（服薬の状況と毎日の体調を記録して確認するためです。）

では、今日の服薬状況と症状について、チェックする練習をしましょう。

<実際にチェック表に記入してもらいます。>

◇質問がないか尋ねる

チェック表の使い方、何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

チェック表は、今日から毎日記入して次回の訪問の時にみせてください。

それを次回までの宿題としましょう。

次回の予定は、___日の___時からです。

◇前回の復習

<ワークブックの『第1回服薬教室』を開くように促します。>

それでは、前回の復習をしたいと思います。前回は、服薬教室の目標と、目標に到達することで得られるメリットなど学びました。前回のビデオを観て、また質問をしますので、注意して観てください。

<タブレットで『第1-1回服薬教室ビデオ』を視聴します。>

<第1回服薬教室の質問を一通りします。時間のない時は、☆印のみでも結構です。>

<解答につまったら、タブレットで『第1回質問（回答付き）』を示します。>

『服薬教室の目標』は、この教室の基本となる大切なものです。今後も何度も質問しますので、ぜひ覚えてください。

何か質問はありませんか？

◇今日の内容の紹介

<ワークブックの『第2回服薬教室』を開くよう促します。>

第2回服薬教室では、薬についての基本的な知識を学びます。

〇〇さんは、毎日飲んでいる薬が体の中でどのようなものかご存知ですか？

<薬についての知識の程度を把握します。>

それでは、「薬は体の中でどうなるのか」、そして「薬の量と効き目の関係」について説明するビデオを観てみましょう。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

<ワークブックの『第2回服薬教室』を示します。>

◇ビデオ視聴

<タブレットで、『第2回服薬教室ビデオ』を観ます。>

<理解を確かめながら、繰り返し観るのもよいでしょう。>

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほどの質問をしますが、よろしいですか？

Q1. 薬はどこから吸収され、何によって体中に運ばれて効果を発揮しますか？

(飲んだ薬は、腸から吸収され、血液によって体中の組織に運ばれて効果を発揮する。)

Q2. 薬はどこで形を変え、どのように体の外に出るのでしょうか？

(肝臓で体の外に出やすい形に変化して、便や尿として体の外に出る。)

Q3. 薬の量と回数が決まっているのはなぜでしょうか？

(薬の血中濃度をちょうど良い状況に保つため。)

<答えにつまったら、タブレットで『第2回服薬教室の課題（回答付き）』を示します。>

◇ロールプレイ

<今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。>

ではこれからロールプレイをします。ロールプレイで練習することは、薬についての基本的な知識を知り、薬を飲んだり、服薬を管理したりする際に役立つものです。二人でやってみましょう。

<場面設定>

ここを、病院の相談室としましょう。患者さんが「薬に関する基本的な知識」について、薬の専門家に聞いている場面です。

<役割設定>

〇〇さんは、「薬に関する基本的な知識」について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

<目的把握>

患者役の私が質問しますから、「薬は体の中でどうなるのか」について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。

「先生、質問があるんですが、いいですか？ 飲んだ薬は、どこで吸収されて、どのようにして効果を発揮するんですか？」

(飲んだ薬は、腸から吸収され、血液によって体中の組織に運ばれて効果を発揮します。)

<時間があればQ2、Q3も行います。>

<手をたたき、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック>

難しい内容ですが、要点をつかんではっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

<良かった所を具体的に挙げてほめてください。>

3

第3回 服薬教室

向精神薬について知る

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認
4. 前回の復習
5. 今日の内容の紹介
6. ビデオ視聴
7. 質疑応答
8. ロールプレイ
9. 質問がないか確かめる
10. 宿題設定と次回の予定確認

◇挨拶・体調確認

<挨拶をかわし、前回の訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめて継続を促します。>

〇〇さん、服薬症状チェック表は記入しましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。

上手に記入できています。引き続き記入してくださいね。

◇服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認

<服薬教室の目標確認をして、学習の意欲を高めます。>

<将来の夢（目標）と関連付けることも有効です。>

服薬教室の目標は何であったか覚えていますか？

服薬教室の目標を達成することは、〇〇さんの目標の達成に役立ちますか？

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

<ワークブックの『第2回服薬教室（回答付き）』を渡します。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

今日の服薬教室はこれで終了です。

明日以降もチェック表を毎日記入して、次回の訪問の時にみせてくださいね。

次回の予定は、__日の__時からです。

<次に、これまでの学習内容の理解度を確認します。ビデオは観ずに質問します。時間がない時は☆印のみでも結構です。>

(例) 今までの復習をしますね。第1回の内容ですが、目標を達成することで得られるメリットにはどんなことがあったか、覚えていますか？

◇前回の復習

<ワークブックの『第2回服薬教室』を開くように促します>

それでは、前回の復習をしましょう。前回は、薬の基本的な知識を学びました。前回のビデオを観て、また質問をしますので、注意して観てください。

<タブレットで『第2回服薬教室ビデオ』を視聴します。>

<『第2回服薬教室』の質問を一通りします。時間がない時は☆印だけでもよいです。>

<解答につまったら、タブレットで『第2回服薬教室(回答付き)』を示します。>

何か質問はありませんか？

◇今日の内容の紹介

今日の服薬教室では、『精神科の薬の特徴』について学びますので、ワークブックを開いてください。

<ワークブックの『第3回服薬教室』を開くように促します。>

〇〇さんは薬を飲むのを急にやめてしまったらどうなるかご存知ですか？

<薬についての知識の程度を把握します。>

それでは、『精神科の薬の特徴』について説明するビデオを観てみましょう。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

<ワークブックの『第3回服薬教室』を示します>

◇ビデオ視聴

<タブレットで、『第3回服薬教室ビデオ』を観ます。>

<理解を確かめながら、繰り返し観るのもよいでしょう。>

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほど示した質問をしますが、よろしいですか？

Q1. 調子が良いのに薬を飲み続けるのはなぜでしょうか？

(調子のよい状態を保つため。)

Q2. 薬を飲むのをやめたらどうなるのでしょうか？

(以前あった症状と同じ症状がまたあらわれる。)

Q3. 今みなさんが飲んでいる薬と、怪我をして化膿したときなどに飲む抗生剤などとはどこが違うのでしょうか？

(抗生物質は症状の原因を治す働きがある。精神科の薬は症状を抑えるが原因までは治せない。)

<「〇〇さんは症状が改善してどんなメリットがありましたか？」など、症状が改善することで、生活の質(QOL)が向上することを確認するとよいでしょう。>

Q4. 薬は長い間体の中にとどまっていますか？

(排泄されるためとどまっていない。だから規則正しく飲むことが大切。)

<答えに詰まった時は、タブレットで『第3回服薬教室(回答付き)』を示します。>

◇ロールプレイ

<今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでいる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。>

ではこれからロールプレイをします。ロールプレイで練習することは、『精神科の薬の特徴』について知り、今後〇〇さんが、薬を飲んだり、服薬を管理したりする際に役立つものです。二人でやってみましょう。

<場面設定>

ここを、病院の相談室としましょう。患者さんが『精神科の薬の特徴』について、薬の専門家に聞いている場面です。

<役割設定>

〇〇さんは、『精神科の薬の特徴』について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

<目的把握>

患者役の私が質問しますから、「薬を飲み続ける理由」について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。

「先生、質問があるんですが、いいですか？ 私は今とても調子が良いのですが、薬を飲み続けなければいけないのは何故ですか？」

(調子の良い状態を保つためです。)

<時間があれば、Q2~Q4も行います。>

<手をたたき、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック>

〇〇さんの説明は、要点をつかんで、はっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

<良かった所を具体的に挙げてほめてください。>

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

<ワークブックの『第3回服薬教室（回答付き）』を渡します。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

今日の服薬教室はこれで終了です。

明日以降もチェック表を毎日記入して、次回の訪問の時にみせてください。

次回の予定は、__日の__時からです。

第4回 服薬教室

4

薬の使用中止による再発の危険性について知る

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認
4. 前回の復習
5. 今日の内容の紹介
6. ビデオ視聴
7. 質疑応答
8. ロールプレイ
9. 質問がないか確かめる
10. 宿題設定と次回の予定確認

◇挨拶・体調確認

<挨拶をかわし、前回の訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめて継続を促します。>

〇〇さん、服薬症状チェック表は記入しましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。

上手に記入できています。引き続き記入してくださいね。

◇服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認

<服薬教室の目標確認をして、学習の意欲を高めます。>

<将来の夢（目標）と関連付けることも有効です。>

服薬教室の目標は何であったか覚えていますか？

服薬教室の目標を達成することは、〇〇さんの目標の達成に役立ちますか？

<次に、これまでの学習内容の理解度を確認します。ビデオは観ずに質問します。時間がない時は、理解が不十分であった回や☆印のみでも結構です。>

今までの復習をしますね。第2回の内容ですが、薬はどこから吸収され、何によって体中に運ばれて効果を発揮するか覚えていますか？

◇前回の復習

<ワークブックの『第3回服薬教室』を開くように促します>

それでは、前回の復習をしましょう。前回は、精神科の薬の特徴について学びました。前回のビデオを観て、また質問をしますので、注意して観てください。

<タブレットで『第3回服薬教室ビデオ』を視聴します。>

<『第3回服薬教室』の質問を一通りします。時間がない時は☆印だけでもよいです。>

<解答につまったら、タブレットで『第3回服薬教室（回答付き）』を示します。>

何か質問はありませんか？

◇今日の内容の紹介

今日の服薬教室では、『薬の使用中止による再発の危険性』について学びますので、ワークブックを開いてください。

<ワークブックの『第4回服薬教室』を開くように促します。>

今日のビデオは、薬を飲むのをやめてしまって、再発したらどうなるのかを説明しています。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

<ワークブックの『第4回服薬教室』を示します>

◇ビデオ視聴

<タブレットで、『第4回服薬教室ビデオ』を観ます。>

<理解を確かめながら、繰り返し観るのもよいでしょう。>

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほど示した質問をしますが、よろしいですか？

Q1. 調子が良いからといって薬を飲むのをやめてしまったらどうなるのでしょうか？

（体から薬が排泄されて症状が再発する可能性があります。再入院の可能性もあります。）

Q2. 病気が再発するたびに症状はどうなるのでしょうか？

（症状を抑えるのに時間がかかります。再発前の状態まで回復するのが難しくなります。）

Q3. 薬を飲みつづけることのメリットは何でしょうか？

（症状が再発しにくくなります。再入院しても入院期間が短くて済みます。）

<答えに詰まった時は、タブレットで『第4回服薬教室（回答付き）』を示します。>

◇ロールプレイ

<今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでいる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。>

ではこれからロールプレイをします。ロールプレイで練習することは、再発や再入院を防ぐために、〇〇さんが、薬を飲んだり、服薬を管理したりする際に役立つものです。

では、二人でやってみましょう。

<場面設定>

ここを、病院の相談室としましょう。患者さんが「薬の使用中止による再発の危険性」について、薬の専門家に聞いている場面です。

<役割設定>

〇〇さんは、『薬の使用中止による再発の危険性』について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

<目的把握>

患者役の私が質問しますから、「薬の使用中止による再発の危険性」について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。

「先生、質問があるんですが、いいですか？ 私がもし薬を飲むのをやめてしまったら、その後どうなるのでしょうか？」

（体から薬が排泄されて症状が再発する可能性があります。再入院の可能性もあります。）

<時間があれば、Q2、Q3も行います。>

<手をたたき、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック>

〇〇さんの説明は、要点をつかんで、はっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

<良かった所を具体的に挙げてほめてください。>

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

<ワークブックの『第4回服薬教室（回答付き）』を渡します。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

今日の服薬教室はこれで終了です。

明日以降もチェック表を毎日記入して、次回の訪問の時にみせてください。

次回の予定は、___日の___時からです。

第5-1回 服薬教室

薬を服用するための正しいステップと 薬の自己管理方法について知る

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認
4. 前回の復習
5. 今日の内容の紹介
6. ビデオ視聴
7. 質疑応答
8. ロールプレイ
9. 質問がないか確かめる
10. 宿題設定と次回の予定確認

◇挨拶・体調確認

<挨拶をかわし、前回の訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめて継続を促します。>

〇〇さん、服薬症状チェック表は記入しましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。

上手に記入できています。引き続き記入してくださいね。

5 1

◇服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認

<服薬教室の目標確認をして、学習の意欲を高めます。>

<将来の夢（目標）と関連付けることも有効です。>

服薬教室の目標は何であったか覚えていますか？

服薬教室の目標を達成することは、〇〇さんの目標の達成に役立ちますか？

<次に、これまでの学習内容の理解度を確認します。ビデオは観ずに質問します。時間がない時は、理解が不十分であった回や☆印のみでも結構です。>

（例）今までの復習をしますね。第3回の内容ですが、調子が良いのに薬を飲み続けるのはなぜでしょうか？

◇前回の復習

<ワークブックの『第4回服薬教室』を開くように促します>

それでは、前回の復習をしましょう。前回は、薬の使用中止による再発の危険性について学びました。前回のビデオを観て、また質問をしますので、注意して観てください。

<タブレットで『第4回服薬教室ビデオ』を視聴します。>

<『第4回服薬教室』の質問を一通りします。時間がない時は☆印だけでもよいです。>

<解答につまったら、タブレットで『第4回服薬教室（回答付き）』を示します。>

何か質問はありませんか？

◇今日の内容の紹介

今日の服薬教室では、『薬を服用するための正しいステップと薬の自己管理方法』について学びますので、ワークブックを開いてください。

<ワークブックの『第5-1回服薬教室』を開くように促します。>

今日のビデオは、薬の袋をよく読んで、正しいスケジュールで服薬することが大切であることを説明しています。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

<ワークブックの『第5-1回服薬教室』を示します>

◇ビデオ視聴

<タブレットで、『第5-1回服薬教室ビデオ』を観ます。>

<理解を確かめながら、繰り返し観るのもよいでしょう。>

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほど示した質問をしますが、よろしいですか？

Q1. 正しい薬の飲み方の最初のステップは何でしょうか？

（薬の袋を注意深く読むことです。）

そうですね。薬の袋に書いてある情報をしっかりと読みましょう。

薬の袋の形式は医療機関や薬局によって異なりますが、情報の内容は同じです。

Q2. どんなスケジュールで飲むとよいでしょうか？

（食事の時に飲むと飲み忘れを防げます。）

Q3. なぜ薬を飲むことを毎日の習慣にすべきなのでしょう？

（定期的に飲むことでよい血中濃度を保つことができます。）

自分のライフスタイルに合わせて、いつも薬を飲んでいる時間に、忘れずに飲んでください。

Q4. でも、もし薬を食事の時に飲めない場合はどうしたらよいでしょうか？

（普段の食事の時間に合わせて飲むとよい。）

その通りです。食事ができないときは、その時間に合わせて薬を飲んでください。

ただし、糖尿病の薬のように食事をしないときは飲んではいけない薬もありますから、食事との関係を主治医と相談しておいてください。

<答えに詰まった時は、タブレットで『第5-1回服薬教室（回答付き）』を示します。>

◇ロールプレイ

<今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでいる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。>

ではこれからロールプレイをします。ロールプレイで練習することは、服薬のための正しいステップと薬の自己管理方法について知るために、とても役立つものです。

二人でやってみましょう。

<場面設定>

ここを、病院の相談室としましょう。患者さんが『服薬のための正しいステップ』について、薬の専門家に聞いている場面です。

<役割設定>

〇〇さんは、『服薬のための正しいステップ』について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

<目的把握>

患者役の私が質問しますから、「服薬のための最初のステップ」について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。

「先生、質問があるんですが、いいですか？ 正しい薬の飲み方の最初のステップとは何でしょうか？」

（最初の大切なステップは、薬の袋を注意深く読むことです。）

<時間があれば、Q2～Q4も行います。>

<手をたたき、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック>

〇〇さんの説明は、要点をつかんで、はっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

<良かった所を具体的に挙げてほめてください。>

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

<ワークブックの『第5-1回服薬教室（回答付き）』を渡します。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

今日の服薬教室はこれで終了です。

明日以降もチェック表を毎日記入して、次回の訪問の時にみせてください。

次回の予定は、___日の___時からです。

第5-2回 服薬教室

薬の剤型と自己管理方法について知る

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 前回の復習（服薬教室の目標確認）
4. 今日の内容の紹介
5. ビデオ視聴
6. 薬の剤型の確認
7. 薬の自己管理方法について学ぶ
8. 質問がないか確かめる
9. 宿題設定と次回の予定確認

◇挨拶・体調確認

<挨拶をかわし、前回の訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめて継続を促します。>

〇〇さん、服薬症状チェック表は記入しましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。

上手に記入できています。引き続き記入してくださいね。

◇服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認

<服薬教室の目標確認をして、学習の意欲を高めます（できれば毎回）。>

<将来の夢（目標）と関連付けることも有効です。>

服薬教室の目標は何であったか覚えていますか？

服薬教室の目標を達成することは、〇〇さんの目標の達成に役立ちますか？

<次に、これまでの学習内容の理解度を確認します。ビデオは観ずに質問します。時間がない時は、理解が不十分であった回や☆印のみでも結構です。>

（例）今までの復習をしますね。第3回の内容ですが、薬を飲むのをやめたらどうなるか覚えていますか？

◇前回の復習

<ワークブックの『第5-1回服薬教室』を開くように促します>

それでは、前回の復習をしましょう。前回は、薬を服用するための正しいステップと薬の自己管理方法について学びました。前回のビデオを観て、また質問をしますので、注意して観てください。

<タブレットで『第5-1回服薬教室ビデオ』を視聴します。>

<『第5-1回服薬教室』の質問を一通りします。時間がない時は☆印だけでもよいです。>

<解答につまったら、タブレットで『第5-1回服薬教室（回答付き）』を示します。>

何か質問はありませんか？

◇今日の内容の紹介

今日の服薬教室では、『薬の剤型と自己管理方法』について学びます。

今日のビデオは、錠剤や粉薬など薬の剤型の違いとそれらの管理方法について説明しています。

観終わったあとで、〇〇さんの薬を確認して、服薬を忘れないための方法について話し合いますので、注意して観てくださいね。

◇ビデオ視聴

<タブレットで、『第5-2回服薬教室ビデオ』を観ます。>

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

<理解を確かめながら、繰り返し観るのもよいでしょう。>

◇薬の剤型の確認

では、薬の剤型の違いを実際に確認してみましょう。

<薬の剤型見本を提示して説明します。>

<剤型見本がない場合は、服薬教室の資料＊を印刷して使用してください。>

このように薬には様々な剤型があります。

同じ成分、同じ効果を持つ薬でも、目的、用途、あるいは飲みやすさなどを考慮して色々な剤型が用意されているのです。

何か質問はありませんか？

<次いで、利用者の薬を確認します。>

では、〇〇さんの飲んでいる薬を見せていただけますか？

<一緒に剤型を確認します。>

〇〇さんは今、＊＊と＊＊を飲んでいますが、飲み心地はいかがですか？

<肯定的であれば>

それはよかったです。飲み心地が悪いと、薬を飲み続けるのがつらくなってしまうことがありますからね。

<否定的であれば>

それは困りましたね。でも同じ成分の薬が、今日学んだように異なる剤型で用意されていることもありますので、次の診察時に主治医に相談してはいかがでしょうか。

◇薬の自己管理方法について学ぶ

<「タッパ」と「お薬カレンダー」を事前に用意しておきます>

ところで、〇〇さんは、例えば朝の薬を飲んだか飲まなかったか忘れてしまったことはありませんか？ 飲み忘れは、多くの方が経験しているようですよ。

<利用者の返事を聞きます。>

それでは、ビデオで観たように、「タッパ」と「お薬カレンダー」を実際に使って、薬をセットしてみましょう。

<利用者の薬袋を確認して1日の服用回数と量を確認します。>

〇〇さんの薬の袋を確認して、主治医に指示された通りに1日分の薬をタッパにセットしましょう。

<利用者に薬をタッパにセットしてもらいます。>

<うまくできないときは、適宜指導します。>

できましたね。セットはとても簡単です。大切なことは、毎日忘れずにセットすることです。

次に、カレンダーに1ヶ月分の薬をセットしてみましょう。

<利用者に薬をカレンダーにセットしてもらいます。>

<うまくできないときは、適宜指導します。>

カレンダーにも上手くセットできましたね。

薬は毎日、タッパやカレンダーから取り出して飲みます。これなら万一飲み忘れても、薬が残っているので、飲んだか飲まなかったかがすぐにわかりますよね。

昼間、外出するときは、昼に飲む薬をチャック付きの袋に入れておくと便利です。

<利用者の生活パターンに応じて、自己管理自方法の利点を伝えます。>

◇質問がないか尋ねる

今日の内容、薬の剤型の違いとそれらの管理方法について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

今日の服薬教室はこれで終了です。

今日学んだ、薬の自己管理方法は利用できそうですか？

明日以降もチェック表を毎日記入して、次回の訪問の時にみせてください。

次回の予定は、___日の___時からです。

第6回 服薬教室

正しい薬の飲み方のルールと飲み忘れた時の対処法について知る

6

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認
4. 前回の復習
5. 今日の内容の紹介
6. ビデオ視聴
7. 質疑応答
8. ロールプレイ
9. 質問がないか確かめる
10. 宿題設定と次回の予定確認

◇挨拶・体調確認

<挨拶をかわし、前回の訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめて継続を促します。>

〇〇さん、服薬症状チェック表は記入しましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。

上手に記入できています。引き続き記入してくださいね。

◇服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認

<服薬教室の目標確認をして、学習の意欲を高めます。>

<将来の夢（目標）と関連付けることも有効です。>

服薬教室の目標は何であったか覚えていますか？

服薬教室の目標を達成することは、〇〇さんの目標の達成に役立ちますか？

<次に、これまでの学習内容の理解度を確認します。ビデオは観ずに質問します。時間がない時は、理解が不十分であった回や☆印のみでも結構です。>

今までの復習をしますね。第4回の内容ですが、調子が良いからといって薬を飲むのをやめてしまったらどうになってしまうか、覚えていますか？

◇前回の復習

<ワークブックの『第5-2回服薬教室』を開くように促します>

それでは、前回の復習をしましょう。前回は、薬の剤型と自己管理方法について学びました。

前回のビデオを観てください。

<タブレットで『第5-2回服薬教室ビデオ』を視聴します。>

どうですか？ タップとカレンダーは役に立ちそうですか？

飲み忘れを防ぐために、ぜひ利用してください。

◇今日の内容の紹介

今日の服薬教室では、『正しい薬の飲み方のルールと飲み忘れた時の対処法について知る』について学びますので、ワークブックを開いてください。

<ワークブックの『第6回服薬教室』を開くように促します。>

今日のビデオは、薬を飲み忘れた時の対処法について詳しく説明しています。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

分かりにくければ、繰り返し見ることができますので、大丈夫ですよ。

<ワークブックの『第6回服薬教室』を示します>

◇ビデオ視聴

<タブレットで、『第6回服薬教室ビデオ』を観ます。>

<理解を確かめながら、必要があれば繰り返し観てください。>

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほど示した質問をしますが、よろしいですか？

Q1. 正しい薬の飲み方のルールとは何でしょうか？

（①毎日薬を飲むことを欠かさないこと、②医師の指示した以上の薬を飲まないこと、③毎日決まった量の薬を決まった回数飲む ということです。）

医師の指示通りに定期的に服用することが大切です。

Q2. このルールはなぜ重要なのでしょうか？

（今のよい状態を維持するために、薬の血中濃度を一定に保つ必要があるからです。）

第2回服薬教室で学んだ『薬物血中濃度』の図を思い出してください。いつも良い血中濃度を保つためには規則正しく薬を飲むことがとても大切です。

Q3. 正しい服用量を守る良い方法は何でしょうか？

（毎日、決まった時間に決まった量の薬を飲むようにすることです。）

その通りです。前回の服薬教室で『食事の時に飲むと忘れにくい』ことを学びましたね。決まった時間に合わせて飲むことがとても大切です。

Q4. 薬は飲み忘れをしないことが大切ですが、もし飲み忘れた時はどうしたらよいでしょうか。

（飲み忘れた場合は、気がついた時に飲み忘れた分をすぐに飲みます。）

薬の飲み忘れに気づいたときは、すぐに忘れた分を飲みましょう。

その場合、次の薬は一定時間あけて飲んでください。

<タブレットで『第6回服薬教室資料』を示します。>

ビデオで示しましたが、一般的に、

1日3回の薬は、4時間以上

1日2回の薬は、5時間以上

1日1回の薬は、8時間以上 あけて服用してください。

〇〇さんは、1日3回薬を飲んでいますがね。午前10時に飲み忘れた薬を飲んだ場合、次に薬を飲む時間を何時にすればよいですか？

（4時間以上あけますから、午後2時以降です。）

そうですね。次に薬を飲む時間は午後2時以降になります。

Q5. もし1回薬を飲むのを忘れたら、次に飲むときに2回分まとめて飲んでよいですか？

（一度に2回分の薬を飲んではいけません。）

<タブレットで『第6回服薬教室資料』を示します。>

その通りです。ビデオでも示しましたが、一度に2回分の薬を服用すると、血中濃度が上昇して、危険な状態になる可能性があります。

<答えに詰まった時は、タブレットで『第5-1回服薬教室（回答付き）』を示します。>

◇ロールプレイ

<今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでいる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。>

ではこれからロールプレイをします。

ロールプレイで練習することは、今後〇〇さんが、薬の飲み忘れを防いで良い状態を保つために、とても役立ちます

では、二人でやってみましょう。

<場面設定>

ここを、病院の相談室としましょう。患者さんが『正しい薬の飲み方のルールと飲み忘れた時の対処法』について、薬の専門家に聞いている場面です。

<役割設定>

〇〇さんは、『正しい薬の飲み方のルール』について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

<目的把握>

患者役の私が質問しますから、「正しい薬の飲み方のルール」について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。

「先生、質問があるんですが、いいですか？ 薬の飲み方の正しいルールについて教えてほしいのですが。」

(①毎日薬を飲むことを欠かさないこと、②医師の指示した以上の薬を飲まないこと、③毎日決まった量の薬を決まった回数飲む ということです。)

<時間があれば、Q2～Q5も行います。>

<手をたたき、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック>

〇〇さんの説明は、要点をつかんで、はっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

<良かった所を具体的に挙げてほめてください。>

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

<ワークブックの『第6回服薬教室（回答付き）』を渡します。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

今日の服薬教室はこれで終了です。

明日以降もチェック表を毎日記入して、次回の訪問の時にみせてください。

次回の予定は、__日の__時からです。

第7回 服薬教室

7

薬の副作用への正しい対処法について知る

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認
4. 前回の復習
5. 今日の内容の紹介
6. ビデオ視聴
7. 質疑応答
8. ロールプレイ
9. 質問がないか確かめる
10. 宿題設定と次回の予定確認

◇挨拶・体調確認

<挨拶をかわし、前回の訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめて継続を促します。>

〇〇さん、服薬症状チェック表は記入しましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。

上手に記入できています。引き続き記入してくださいね。

◇服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認

<服薬教室の目標確認をして、学習の意欲を高めます。>

<将来の夢（目標）と関連付けることも有効です。>

服薬教室の目標は何であったか覚えていますか？

服薬教室の目標を達成することは、〇〇さんの目標の達成に役立ちますか？

<次に、これまでの学習内容の理解度を確認します。ビデオは観ずに質問します。時間がない時は、理解が不十分であった回や☆印のみでも結構です。>

今までの復習をしますね。第5回の内容ですが、正しい薬の飲み方の最初のステップは何だったか覚えていますか？

◇前回の復習

<ワークブックの『第6回服薬教室』を開くように促します>

それでは、前回の復習をしましょう。前回は、正しい薬の飲み方のルールと飲み忘れた時の対処法について学びました。前回のビデオを観て、また質問をしますので、注意して観てください。

<タブレットで『第6回服薬教室ビデオ』を視聴します。>

<『第6回服薬教室』の質問を一通りします。時間がない時は☆印だけでもよいです。>

<解答につまったら、タブレットで『第6回服薬教室（回答付き）』を示します。>

何か質問はありませんか？

◇今日の内容の紹介

今日の服薬教室では、『薬の副作用への正しい対処法』について学びますので、ワークブックを開いてください。

<ワークブックの『第7回服薬教室』を開くように促します。>

今日のビデオは、向精神薬の副作用とその対処法について詳しく説明しています。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

分かりにくければ、繰り返し見ることができますので、大丈夫ですよ。

<ワークブックの『第7回服薬教室』を示します>

◇ビデオ視聴

<タブレットで、『第7回服薬教室ビデオ』を観ます。>

<理解を確かめながら、必要があれば繰り返し観てください。>

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほど示した質問をしますが、よろしいですか？

Q1. 向精神薬にはどのような作用があるのでしょうか？

（薬には、その目的である主作用と、望ましくない作用である副作用とがあります。）

そうですね、全ての薬には治療を目的とする作用つまり主作用と、望まない作用つまり副作用があります。

Q2. なぜ副作用について知っておく必要があるのでしょうか？

（薬の主作用を最大限に利用し、副作用をできるだけ少なくするためにも、副作用について知っておく必要があります。）

Q3. 副作用は一度起こると、抑えられないものですか？

（いいえ、違います。たとえ副作用が現れたとしても、うまく対処する方法を知っていると、抑えることができます。）

Q4. では、薬の副作用への正しい対処法を教えてください。

（副作用に対処するためには副作用のチェック表を活用します。今までなかった気になる症状があったら、チェック表に毎日記入し、それを主治医に見せます。軽い副作用であれば、副作用チェック表に従って自分で対処できます。もしより重い副作用でしたら主治医に相談します。）

そうですね。まずは毎日『服薬と症状チェック表』に記入することが大切です。

『服薬と症状チェック表』は外来受診時に主治医に見てもらいましょう。

軽い副作用ならば『副作用チェック用紙』の指示で対処できます。

めったに起きることはないのですが、『より重い副作用チェック用紙』にあてはまる場合は、すぐに主治医に報告しましょう。

Q5. 副作用が起きるからという理由で、服薬をやめてもよいのでしょうか？

（いいえ。副作用が起きるからという理由で服薬を急にやめることはよくありません。薬の副作用がひどいと思った場合、服用を中止するかどうかは担当医と相談して決めます。）

副作用に早く気付いて上手に対処し、服薬を規則正しく続けることが大切です。

◇ロールプレイ

<今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでいる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。>

ではこれからロールプレイをします。

ロールプレイで練習することは、今後〇〇さんが、副作用に早く気付いて上手く対処するために、とても役立ちます

では、二人でやってみましょう。

<場面設定>

ここを、病院の相談室としましょう。患者さんが『薬の副作用への正しい対処法』について、薬の専門家に聞いている場面です。

<役割設定>

〇〇さんは、『薬の副作用への正しい対処法』について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

<目的把握>

患者役の私が質問しますから、「薬の主作用と副作用」について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。

「先生、質問があるんですが、いいですか？ 薬には主作用と副作用というものがあるそうですが、詳しく教えていただけますか。」

(全ての薬には治療を目的とする作用つまり主作用と、望まない作用つまり副作用があります。)

<時間があれば、Q2～Q5も行います。>

<手をたたき、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック>

〇〇さんの説明は、要点をつかんで、はっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

<良かった所を具体的に挙げてほめてください。>

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

<ワークブックの『第7回服薬教室（回答付き）』を渡します。>

◇宿題の設定と次回の予定確認

今日の服薬教室はこれで終了です。

明日以降もチェック表を毎日記入して、次回の訪問の時にみせてください。

次回の予定は、__日の__時からです。

第8回 服薬教室

8

持効性注射剤について知る

◇進め方

1. 挨拶（気分と体調の確認）
2. 宿題の確認
3. 服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認
4. 前回の復習
5. 今日の内容の紹介
6. ビデオ視聴
7. 質疑応答
8. ロールプレイ
9. 質問がないか確かめる
10. 服薬教室の振り返り

◇挨拶・体調確認

<挨拶をかわし、前回の訪問以降の出来事をたずね、気分と体調の変化を確認します。>

〇〇さん、こんにちは。

前回の訪問以降、何か困ったことはありませんか？

気分や体調はいかがですか？

◇宿題（チェック表）の確認

<チェック表を確認し、努力をほめて継続を促します。>

〇〇さん、服薬症状チェック表は記入しましたか？

毎日きちんと薬をのんで、具合もよいようですね。

上手に記入できています。引き続き記入してくださいね。

◇服薬教室の目標とこれまでの学習内容の確認

＜服薬教室の目標確認をして、学習の意欲を高めます。＞

＜将来の夢（目標）と関連付けることも有効です。＞

今日は、この服薬教室の最後の回ですが、目標は何であったか覚えていますか？

服薬教室の目標を達成することは、〇〇さんの目標の達成に役立ちますか？

＜次に、これまでの学習内容の理解度を確認します。ビデオは観ずに質問します。時間がない時は、理解が不十分であった回や☆印のみでも結構です。＞

今までの総復習をしましょう。第1回から6回の内容を質問しますね。

◇前回の復習

＜ワークブックの『第7回服薬教室』を開くように促します＞

それでは、前回の復習をしましょう。前回は、薬の副作用への正しい対処法について学びました。前回のビデオを観て、また質問をしますので、注意して観てください。

＜タブレットで『第7回服薬教室ビデオ』を視聴します。＞

＜『第7回服薬教室』の質問を一通りします。時間がない時は☆印だけでもよいです。＞

＜解答につまったら、タブレットで『第7回服薬教室（回答付き）』を示します。＞

何か質問はありませんか？

◇今日の内容の紹介

今日の服薬教室では、『持効性注射剤について知る』について学びますので、ワークブックを開いてください。

＜ワークブックの『第8回服薬教室』を開くように促します。＞

これまでの服薬教室では内服薬の自己管理について学んできましたが、〇〇さんは『持効性注射剤』という注射薬をご存知ですか？

＜持効性注射剤についての知識の程度を把握します。＞

今日のビデオは、注射薬による治療について説明しています。

観終わったあとで、ここにあるような質問をしますので、注意して観てください。

分かりにくければ、繰り返し見ることができますので、大丈夫ですよ。

＜ワークブックの『第8回服薬教室』を示します＞

◇ビデオ視聴

＜タブレットで、『第8回服薬教室ビデオ』を観ます。＞

＜理解を確かめながら、必要があれば繰り返し観てください。＞

◇質疑応答

いかがですか。もう一度ビデオを観ますか？

では、先ほど示した質問をしますが、よろしいですか？

Q1. 持効性注射剤とはどのようなものでしょうか？

（持効性注射剤は、『長く効果が続く薬』という意味です。通常1回の注射で4週間あるいは2週間効果が続きます。）

Q2. 持効性注射剤はどのように薬を体内に入れるのでしょうか？

（注射で薬を体内に入れます。）

Q3. 持効性注射剤のメリットは何でしょうか？

（毎日薬を飲み続ける煩わしさがなく、飲み忘れる心配がありません。そのため薬の血中濃度が安定して再発を防ぎ効果が期待されます。）

Q4. 持効性注射剤のデメリットは何でしょうか？

（デメリットとして、注射剤のため痛みがあります。また主作用（効果）が長く続く一方で、副作用も長く続く可能性があります。）

痛みに関しては、ビデオにありましたように『“ものすごく痛い”を100とすると、3.5位の痛み』という報告があります。

副作用に関しては、事前に経口薬によって効果や副作用をよく調べておく必要があります。

注射剤治療についてもっと知りたければ、ぜひ主治医に相談してみてください。

◇ロールプレイ

＜今回の内容について、ロールプレイをします。役割交換をして、スタッフが薬を飲んでいる患者役に、利用者が薬の専門家役になります。＞

ではこれからロールプレイをします。

ロールプレイで練習することは、今後〇〇さんが、持効性注射剤について理解を深めるために、とても役立ちます

では、二人でやってみましょう。

＜場面設定＞

ここを、病院の相談室としましょう。患者さんが『持効性注射剤』について、薬の専門家に聞いている場面です。

＜役割設定＞

〇〇さんは、『持効性注射剤』について説明する薬の専門家になってください。私は専門家に質問する患者さんの役をします。

＜目的把握＞

患者役の私が質問しますから、「持効性注射剤とは何か」について説明してくださいね。

<ロールプレイ>

では、始めましょう。

「先生、質問があるんですが、いいですか？ 1回の注射で何週間も効果がある持効性注射剤というのがあると聞いたのですが、どういうものか教えていただけますか。」

(持効性注射剤とは、『長く効果が続く薬』という意味です。通常1回の注射で4週間あるいは2週間効果が続きます。)

<時間があれば、Q2~Q4も行います。>

<手をたたき、一拍おいて>はい、ありがとうございます。

<正のフィードバック>

〇〇さんの説明は、要点をつかんで、はっきり説明できていたので、とてもよくわかりました。

<良かった所を具体的に挙げてほめてください。>

◇質問がないか尋ねる

今日の内容について何か質問はありませんか？

<質問に答え、必要があればビデオを観なおします。>

今日学んだ内容のまとめです。ワークブックと一緒に保管しておいてください。

<ワークブックの『第8回服薬教室(回答付き)』を渡します。>

◇服薬教室の振り返り

今日で服薬教室は終了です。

全体を通じて何か質問はありませんか？

今後、疑問が生じたら、『ワークブックのまとめ』を見なおしてください。

それで解決しなければ、訪問スタッフに質問してください。

一緒にビデオを観ることも可能です。